

いよいよ霜がおりる季節になってきました。O2ファームはそろそろ農閑期。春から秋は休みがほとんどないため、「お百姓さんは大変そう」と見えるようですが、いったん農閑期に入ってしまうと毎日がゆっくりと流れます。もちろん遊んでばかりはいられませんが、来年に向けてしっかり充電する大事な時期です。最近の仕事や暮らしを紹介しますね。

稲刈りシーズンは忙しくて種を蒔く暇がなかった菜園。寒くなりすぎると発芽しないので、焦るような祈るような気持ちで種を蒔きます。高菜、ほうれん草、そら豆...。高菜は1週間もしないうちに芽を出しはじめ、周りの木や草が徐々に枯れていくのと対照的に、青々とした葉を広げています。タマネギは苗を買ってきます。どこでも同じかどうかは知りませんが、ここらではタマネギ苗が大人気。いつもは暇そうな(失礼!)苗屋さんですが、タマネギ苗を入荷すると、とたんに行列が!タマネギ渋滞と呼んでもおかしくない異例の渋滞で、苗さんはてんでこまい。ご近所さんに遅れること数日。我が家もどうにかタマネギ苗を仕入れました。その数500本。あらかじめ作っておいた畝に20センチ位の間隔で定植していきます。こういう単純作業は私の出番。子供たちもちろん手伝います。穴を開けて、苗を入れて、土を被せる。ただこれだけのことですから、子供たちも立派に植えていきます。問題は1歳半の三男坊。最近は何でも同じことをやりたがるのですが、さすがに彼にとっては難しい作業。同じことをしているつもりではあるようで、見ていると笑えます。が、苗はダメになります!植えるのを止めたら、今度は植えた苗を引き抜いていくではありませんか!コータを呼び出し、讚太郎を畑から連れ出してもらいました。来年はできるようになるかな?



それから、稲刈りが一段落したこの時期に、毎年お米の検査があります。おあしす米は生産者からお客様に直接お届けするので、本来なら必要ないのですが、農協の倉庫で保管させてもらうため、検査を受けなければいけないのです。しかしその分、検査料もかかるわけではありますが...。おあしす米生産組合のメンバーは20人。生産者ごとに検査を受けていきます。米の袋にぶすっと穴が明けられ、玄米が一握りほど取り出されます。だいたい5袋に1袋の割合で検査されるのですが、我が家のは、なぜか全部穴が開けられていきます。

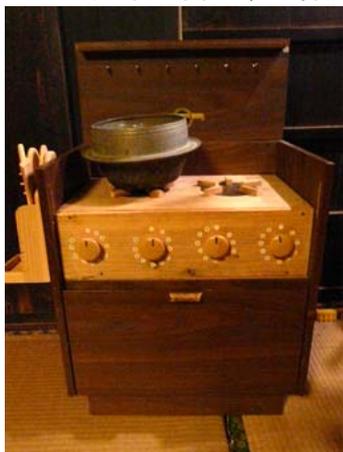
え~、なんで!?!と思いましたが、それを口にするわけにもいきません。結局、最初の30袋(1袋に30キロずつ入っています)は全て検査され、あとは5袋に1つ。こちらが若いのでヘタクソと思われたのかなあ、などと不安になりましたが、結果はすべて「一等米」!

良かった！検査が終わると、農協の倉庫に運び入れます。30キロの袋を何百も運ぶのはかなりの力仕事。私も参戦しましたが、翌日、やっぱり筋肉痛になりました。

コータは「出稼ぎ」を始めました。現場は、阿蘇山の向こう側にある都市農村交流施設。北外輪山の麓で、移築した古民家を拠点に田畑や親水公園が周囲に広がっています。なんだか他所に行った気がしない！という場所です。その施設にトンボが棲めるビオトープ（生息空間）をつくる事業がスタート。ドイツ留学中に景観計画の勉強をしていたコータにも白羽の矢がたち、農閑期だけ、という条件で参画することになった次第です。まだ工事は始まっておらず、打ち合わせや計画作りのようですが、目下初めての自動車通勤（！？）を体験中。作業の進捗状況を通信でもお知らせしていきますね。



それ以外の日は、山仕事や庭仕事に、木工、家や機械の補修などなど。前々から子供たちにねだられていた「踏台」や「台所」も作り、家族サービスもばっちり。子供たちはさっそくドングリやら葉っぱを集めては忙しそうにお料理ゴッコをしています。その子供たちに「来年になったら保育園に行く？」と尋ねてみたところ、なんと！「田んぼのお仕事があるから行けない！」ですって。次男・連蔵の意見に、長男・桔平も全く同感、といった様子でうなずきます。「じゃあ、田植えや稲刈りの時だけ休めばいいんじゃない？」と私。「でも草とりもしなきゃいけないし、コイツかみもしなきゃいけないし、忙しいんだよね！」と子供たち。うーむ、参った。そのうち農作業など見向きもなくなるかもしれませんが、彼らの意欲は大事にしてあげたいと思うのが親心。育児漬けの毎日は来年も続きそうです。



桔平と連蔵は数え年だともう4歳。熊本では「紐解き」と呼ばれるお祝いをするのが慣わしとのこと。昔は4歳になると、つけ紐の着物から帯締めに着物に代えていたことから、こう呼ばれているそう。熊本では男の子は数え年の3歳（髪置き）と4歳（紐解き）でお祝いをして、女の子はそれに加えて7歳もお祝いするのが「正しい七五三」のお祝いだそうです。私は、夫の両親に教えてもらい、慌てて熊本式でお祝いをしました。



インフルエンザの猛威はとどまるところをしりませんが、どうぞ皆さまくれぐれもお気をつけ下さい。もちろん風邪にもお気をつけくださいね。

